

義元公「大好き」宣言

功績たたえ法要も

静岡でシンポ

今川義元公生誕五百年祭推進委員会(委員長・小和田哲男静岡大名普教授、事務局・静岡商工会議所)は、義元公の命日にあたる19日、今川シンポジウムを静岡市葵区で開いた。義元公の功績を正しく理解し、広く後世に伝えていくことを誓った。「今川義元公大好き宣言」を採択した。軟弱な武将との印象が少しずつ払拭(ふっしょく)されたとし、義元公をモチーフにしたキャラクター「今川さん」の悔し涙が拭き取られた。



今川義元公大好き宣言が採択され、子供たちが涙を拭った今川さん
=19日午後、静岡市葵区の市民文化会館



義元公の功績をたたえた
合同法要=19日午前、静岡市葵区の臨濟寺

シンポジウムでは、連続性を強調した。小和田委員長が「どつておきの今川義元」と題して講演した。義元公は海道一の弓取りと称され、上杉謙信や武田信玄と肩を並べた優れた戦国武将と紹介された。金山収入や商品流通経済の掌握で卓越した経済力があつたと説明。「今川があつて徳川があり」と歴史の要が営まれた。田辺信

シンポジウムに先立ち、今川家の菩提(ぼだい)寺である臨濟寺(同区)で初の合同法要が営まれた。田辺信

市立安東小と静岡大付属静岡小の児童らが、義元公にちなんだ合唱や演劇も披露し、魅力を発信した。

商議所の酒井公夫会頭から正副会頭、義元公の胴塚をまつる愛知県豊

川市の大聖寺の関係者ら約500人が参列し、静岡の礎を築いた(経済部・牧野めぐみ)

義元公の功績をたたえ、感謝した。